



News Release

2018年5月14日

ヘンケル、北米コンシューマービジネスの配送問題と、為替変動の四半期へのマイナスの影響にもかかわらず、第1四半期の堅調な進展を報告

ヘンケル、既存事業売上高の増加と、利益率および一株あたり利益のさらなる向上を実現

- 売上高は 48 億 3,500 万ユーロ: 既存事業売上高は 1.1%増、名目売上高は 4.5%減で、為替変動によるマイナスの影響が 8.6%
- 調整後*の売上高営業利益率(EBIT マージン)のさらなる改善: 50 ベーシスポイント増の 17.4%
- 調整後*の優先株(一株)あたり利益(EPS)の増加: 1.4%増の 1.43 ユーロ、為替変動によるマイナスの影響が 6.4%
- 北米では、第2四半期中にサービスレベルが通常に戻る予定
- 2018 年度の見通しを再確認

* 一時所得、一時費用およびリストラ費用を除く

デュッセルドルフ - ヘンケル最高経営責任者のハンス・ファン・バイレンは、「北米での消費財ビジネスが配送の問題に直面したにもかかわらず、ヘンケルは第1四半期に堅調な進展をとげることができました。既存事業売上高が増加し、調整後の EBIT マージンもさらに改善されています。また、為替変動によるマイナスの影響が非常に大きかったにもかかわらず、調整後の優先株(一株)あたり利益も増加しました。このような業績に基づいて 2018 年度の見通しを再確認しており、当社は今後も収益性の高い成長を続けるために力を尽くしていきます」と述べています。

ハンス・ファン・バイレンは、「第1四半期に、当社は並外れて大きい為替変動によるマイナスの影響に直面し、それが報告書の売上高に 8.6%、約 440 百万ユーロの影響を及ぼしました。営業利益および一株あたり利益も、この為替変動によるマイナスの影響を受けました」との説明を加え、「アドヒーズ テクノロジーズ(接着技術)事業部門では、既存事業売上高が非常に力強い伸びを示しました。一方、ランドリー&ホームケア事業部門とビューティーケア事業部門の売上高は前年のレベルを下回りましたが、その原因は主に3月に報告した北米における消費財ビジネスの配送問題でした。第2四半期中には、通常のサービスレベルに戻る見通しです」と述べています。

2018 年第1四半期の売上高および利益

2018 年第1四半期の売上高は 4,835 百万ユーロでした。為替変動と売却・買収の影響を除外した既存事業売上高は、1.1%増となりました。為替変動によるマイナスの影響は、売上高に 8.6%の影響を与えました。また、売却・買収の貢献は 3.0%に達しました。名目売上高は、前年同期比で 4.5%減少しています。

接着技術事業部門の既存事業売上高は 4.7%増と、非常に力強い伸びを示しました。北米の消費財ビジネスで配送問題が生じたことから、ビューティーケア事業部門の既存事業売上高は前年同期比で 4.3%減となりました。ランドリー&ホームケア事業部門は、既存事業売上高が 0.7%とわずかに減少しています。

新興市場の既存事業売上高は 6.9%増と非常に力強く、今期もグループの既存事業売上高の成長に平均を上回る貢献を果たしました。北米の消費財ビジネスで配送問題が生じたことから、成熟市場の既存事業売上高は 2.8%減となっています。

西欧地域での既存事業売上高は 0.2%増、東欧地域での既存事業売上高は 7.6%増、アフリカ・中東地域での既存事業売上高は 8.6%増を達成しました。北米地域では消費財ビジネスの配送問題により、既存事業売上高は 6.5%の減少となっています。中南米地域での既存事業売上高は 7.3%増、アジア太平洋地域での既存事業売上高は 4.2%増を達成しました。

調整後の営業利益(EBIT)は 842 百万ユーロで、2017 年第 1 四半期(854 百万ユーロ)より 1.4%減少しました。為替変動が 6.2%のマイナスの影響を及ぼしています。

調整後の売上高営業利益率(EBIT マージン)は、0.5 パーcentageポイント増の 17.4%でした。

調整後の優先株(一株)あたり利益(EPS)は、1.41 ユーロから 1.4%増の 1.43 ユーロとなりました。EPS 成長率は、為替変動によって 6.4%のマイナスの影響を受けました。

売上高に対する正味運転資本は、6.2%と、2017 年第 1 四半期(4.9%)のレベルを上回りました。

2018 年 3 月 31 日の時点で、ヘンケルの正味財務状況はマイナス 3,247 百万ユーロでした(2017 年 12 月 31 日の時点ではマイナス 3,225 百万ユーロ)。

事業部門別実績

接着技術事業部門は、第 1 四半期の既存事業売上高が 4.7%増と、非常に力強い伸びを示しました。名目売上高は、前年同期の 2,295 百万ユーロに対し、2,270 百万ユーロとなっています。調整後の営業利益は 410 百万ユーロに達しましたが、2017 年第 1 四半期をわずかに下回りました。調整後の売上高営業利益率は、前年同期と同じ 18.1%でした。

ビューティーケア事業部門の既存事業売上高は、第 1 四半期に 4.3%減少しました。北米の配送問題による影響を除外すれば、売上高はおおよそ前年同期と同レベルになる状況でした。名目売上高は、前年同期の 1,011 百万ユーロに対し、965 百万ユーロでした。調整後の営業利益は 161 百万ユーロに達しましたが、前年同期と比較して 4.6%減少しました。調整後の売上高営業利益率は、着実な伸びを見せて 16.7%に達しました。

ランドリー&ホームケア事業部門は、第 1 四半期の既存事業売上高が 0.7%減と、わずかに減少しました。北米の配送問題による影響を除外すれば、ランドリー&ホームケア事業部門の売上高は順調に伸びるところでした。名目売上高は、前年同期の 1,726 百万ユーロに対し、1,569 百万ユーロでした。調整後の営業利益は 291 百万ユーロで、2017 年第 1 四半期より 2.5%減少しました。調整後の売上高営業利益率は 1.2 パーcentageポイント増加して、18.5%になっています。

2018 年度の見通しを再確認

ヘンケルは、今年度中は変わりやすく不確かな市場環境が続くものと予想しています。為替相場は依然として大幅に変動していくと思われます。ヘンケルでは引き続き、米ドルがユーロに対して 2017 年の水準に比べて弱くなっていくとともに、新興成長市場の重要な通貨の一部でも価値の低下が生じると予想しています。さらに、原材料および梱包の価格が前年と比較して上昇を続けると予想しています。

ヘンケルは 2018 年度について、2018 年 3 月からの最新の見通しを再確認しました。既存事業売上高成長率は 2~4%を見込み、接着技術事業部門とランドリー&ホームケア事業部門がこの範囲内で成長し、ビューティーケア事業部門は 0~2%の範囲で成長すると予想しています。調整後の売上高営業利益率(EBIT マージン)については、3 事業部門すべての貢献によって、17.5%を超える水準まで上昇すると予想しています。為替市場の不安定、とくに米ドルの傾向により、調整後の優先株(一株)あたり利益はユーロで 5~8%の増加を見込んでいます。

(本プレスリリースは、2018 年 5 月 9 日にドイツ・ヘンケル本社が発表したプレスリリースの翻訳版です)

ヘンケルについて

ヘンケルはブランドとテクノロジーのグローバルリーダーとして、ランドリー&ホームケア、ビューティーケア、アドヒーズテクノロジー(接着技術)の 3 つの分野で事業展開をしています。ヘンケルは 1876 年の創立以来、コンシューマービジネスおよび産業分野において、Persil(パーシル)、Schwarzkopf(シュワルツコフ)、Loctite(ロックタイト)などに代表される有名なブランドの数々と共に、グローバルにおけるマーケットリーダーとしての地位を維持しています。ヘンケルの従業員数は 53,000 人超であり、2017 年の売上高は 200 億ユーロ、調整後の営業利益はおよそ 35 億ユーロを計上しました。ヘンケルの優先株はドイツ株式指数 DAX のリストに入っております。

本プレスリリースにおける将来予測は、弊社経営陣の知見と現在の予測に基づくものです。将来予測は、英文中 “expect” “intend” “plan” “predict” “assume” “believe” “estimate” “anticipate” “forecast”等の語や同様の表現を用いて特徴づけられています。こうしたステートメントは、将来予測の実現を確約するものではありません。将来のヘンケル社および関連企業の業績は、多くのリスクならびに不確実な要因によって、本稿の将来予測とは異なる場合があります。こうした要因の多くは、経済状況や競合の活動、その他市場要因など、弊社のコントロールを超えるものや前もって正確に予測することができないものです。ヘンケルは、これら将来予測をアップデートする意向はなく、またそれに関するいかなる義務を負うものでもありませんので、ご了承ください。

コンタクト

Lars Witteck

Phone: +49 211 797 – 2606

Email: lars.witteck@henkel.com

Wulf Klüppelholz

Phone: +49 211 797 – 1875

Email: wulf.klueppelholz@henkel.com

ヘンケルジャパンホームページ: <http://www.henkel.co.jp>

ヘンケルジャパンフェイスブックページ: <http://www.facebook.com/HenkelJapan>

— 本件に関するお問合せ先 —

ヘンケルジャパン株式会社 広報室 小野尾 秀美

TEL: 070-1548-4840 e-mail: hidemi.onoo@henkel.com